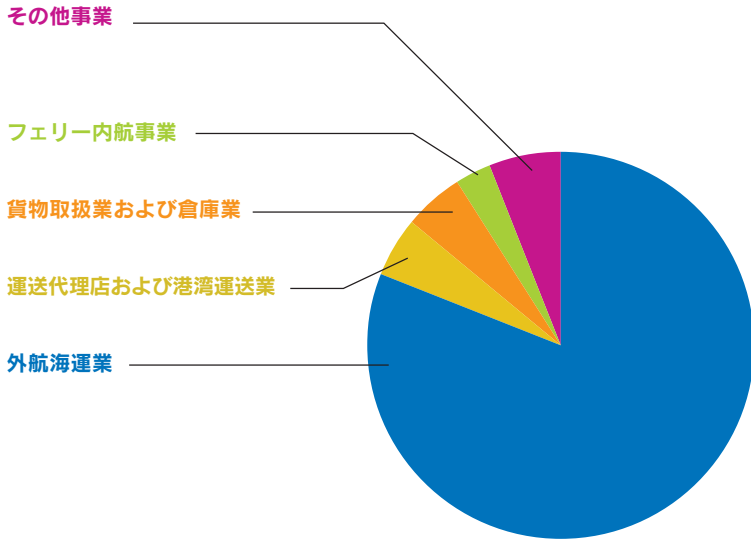


## 營業概況

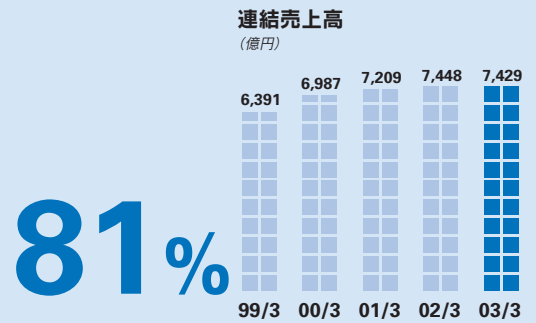


## 連結業績概況



### 外航海運業

- > 船舶運航業 > 船舶運航管理業
- > 貸船業 > 客船事業



### フェリー内航事業

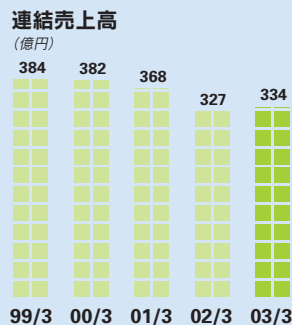
- > フェリーおよび内航海運業
- > 曳船業

3%

#### 2002年度業績

同セグメントの売上高は2.3%増の334億円、営業利益は前期の損失から大幅に改善し6億円となりました。これは、2002年3月に九州急行フェリー(株)を子会社化、同年6月より商船三井フェリー(株)が大洗/苫小牧航路において東日本フェリー(株)との共同配船を実施、さらに不採算航路の廃止などのコスト削減が効果をあげたことによるものです。同事業では、さらなる収支改善を目指して、阪神/九州航路や関東/九州航路における共同配船の実施等でコスト削減を進めていきます。

フェリー「さんふらわあつくば」

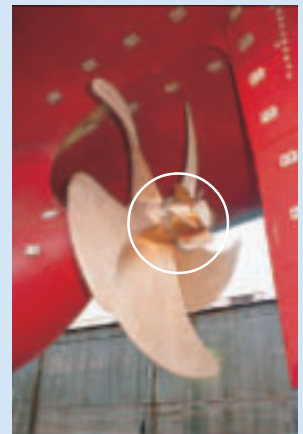
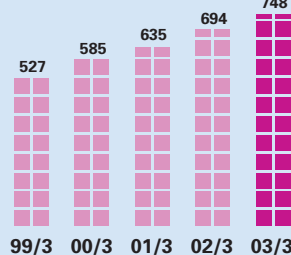


### その他事業

- > 不動産賃貸業
- > 金融業務
- > その他事業

6%

#### 連結売上高 (億円)



PBCF(プロペラ・ボス・キャップ・フィンズ)。商船三井が開発し、販売している省エネプロペラ

#### 2002年度業績

同セグメントの売上高は7.9%増の748億円、営業利益は52.2%増の39億円となりました。これは、商社事業で船用品を中心とする営業基盤強化の推進により損益が改善するとともに、旅行代理店業でも損益が前期を上回ったことによるものです。

コンテナ船「MOL Encore」



### 2002年度業績

同セグメントの売上高は0.2%減の7,429億円、営業利益は36.2%減の374億円となりました。定期船東西基幹航路の荷動きは好調でしたが、運賃市況の回復が下期にずれ込んだこと、また、燃料油価格の高騰の影響を受け、定期船部門の損益は悪化しました。しかしながら次期の運賃市況改善が見込まれることから、当社は、新造大型船のアジア／欧州航路への投入や北米西岸サービスの大型化など、積極的にサービス改善およびコスト競争力の強化を図っています。不定期専用船部門は、中国向け貨物の活発な船腹需要によって下期の運賃市況好転があったものの、乾貨物船の運賃市況が上期まで低迷したことが影響し、損益は前期を下回りました。また、客船事業はほぼ前期並に推移しました。

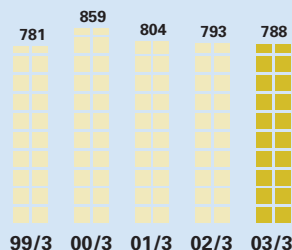
## 運送代理店および港湾運送業

- > 運送代理店業
- > 港湾運送業および通関業

### 2002年度業績

同セグメントの売上高は0.5%減の788億円、営業利益は91.3%増の23億円となりました。これは、外航海運業定期船部門における好調な荷動きに支えられた結果で、運送代理店業の損益は大幅に改善しました。加えて同事業では、ますます多様化するお客様ニーズに的確に対応し、サービス内容のさらなる充実を図るため、シンガポールの定期船代理店を完全自営化しました。港湾運送業は、国内景気の低迷、競争の激化など厳しい環境下にありましたが、コスト削減をはじめとする合理化策が寄与し、損益は改善しています。

連結売上高  
(億円)



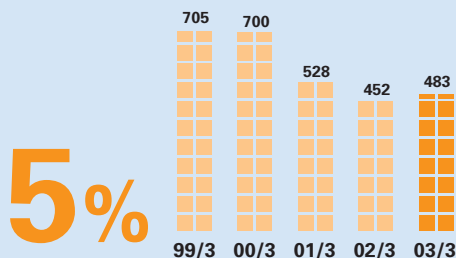
神戸国際コンテナターミナル

5%

## 貨物取扱業および倉庫業

- > 貨物運送取扱業
- > 倉庫業

連結売上高  
(億円)



### 2002年度業績

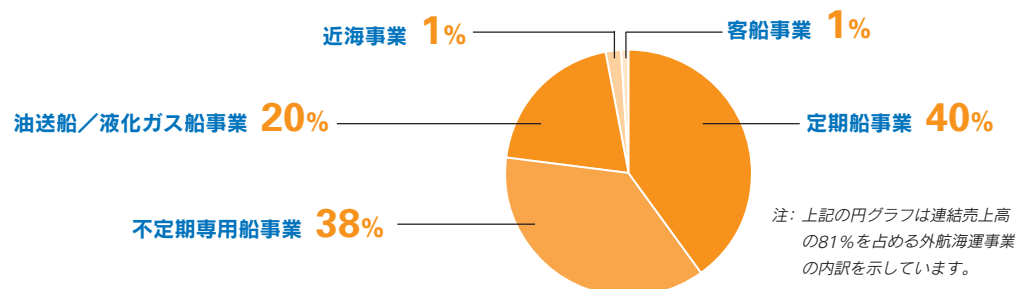
同セグメントの売上高は7.1%増の483億円、営業損益0億円と前期より改善しています。これは、航空貨物輸送業が、2002年10月の米国西岸港湾労使紛争の影響による海上輸出貨物のシフトや中国を中心とするアジア向け輸出貨物の好調な荷動きに支えられたことによるものです。

大井物流センター



## 外航海運業

## 外航海運業売上高



	売上高	概況
<b>定期船事業</b>	(億円) 2,770 2,680 2,724 2,787 2,780 99/3 00/3 01/3 02/3 03/3 * 単体ベース	商船三井は68隻のコンテナ船の運航に加え、ターミナル、倉庫の運営、フォワーディング業務など総合的な物流サービスを提供するとともに、APL社および現代商船と世界最大規模、約100隻の定期船船隊を誇るアライアンス(TNWA)を形成し、世界の定期船事業をリードしています。また、最新技術を駆使した情報システム構築や新造船の投入、その他のインフラ整備などにより業務効率を大幅に高め、サービス品質の向上を実現しています。
<b>不定期専用船事業</b>	(億円) 1,937 2,370 2,533 2,590 2,667 99/3 00/3 01/3 02/3 03/3 * 単体ベース	鉄鉱石、原料炭、電力炭、木材チップ、穀物などを主要貨物とするバルクキャリア部門では、ケーブサイズ、パナマックス、ハンディマックス、スモールハンディバルカーなど、300隻から成る世界最大級の船隊を持ち、お客様ニーズに対応する多様なサービスを提供しています。当社がわが国ではじめて専用船を就航させた自動車船事業は、世界の約20%のシェアを誇り、自動車の世界四極(日本・韓国、北米、欧州、東南アジア)および南米・アフリカの生産体制に対応したグローバルなサービスを提供し、自動車メーカーの世界市場への進出および中国をはじめとする生産拠点拡大に呼応したサービスを展開しています。
<b>油送船/液化ガス船事業</b>	(億円) 1,048 1,355 1,456 1,445 1,418 99/3 00/3 01/3 02/3 03/3 * 単体ベース	当社は、油送船および液化ガス船では、世界最大規模、100隻の船隊を擁し、20万重量トン以上のVLCCの約2/3は国内の石油会社が、残りは海外の石油会社が用船しています。また、近年、環境保全の観点から要請の高まっているVLCCの二重船殻タンカー(ダブルハル)化にも積極的に取り組み、2008年度末までには全船のダブルハル化を、当初の計画を2年間前倒して実現する予定です。LNG船は、現在21隻を運航、世界市場の約30%以上のシェアを占め、世界トップの地位を獲得しています。メタノール輸送船は約70%と高シェアを維持しており、そのほとんどが日本以外の三国間トレードとなっています。
<b>近海事業</b>	(億円) 144 128 132 119* 132 99/3 00/3 01/3 02/3 03/3	商船三井近海(株)は、日本と極東・東南アジア諸国間において在来定期船並びに不定期船サービスを行い、同地域の貿易に重要な役割を果たしています。同社は、2001年7月1日にエム・オー・シーウエイズとナビックス近海の近海部門を事業統合し、約45隻の運航規模を有する当社グループの近海事業の中核を成しています。
<b>客船事業</b>	(億円) 114 100** 89 88 49 99/3 00/3 01/3 02/3 03/3	商船三井グループは、約100年以上にわたり、一貫して外航客船運航に携わってきました。2002年のチャーター部門分離後、商船三井客船は、純レジャー仕様の客船「につぼん丸」1隻を運航しています。「につぼん丸」(21,903総トン)は、その豪華な施設と真心のこもったサービスで乗船されたお客様にきわめて高いご満足をいただいております。

注: 定期船、不定期専用船、油送船/液化ガス船、近海、客船事業の売上高の合計は、連結外航海運業の合計とは一致しません。

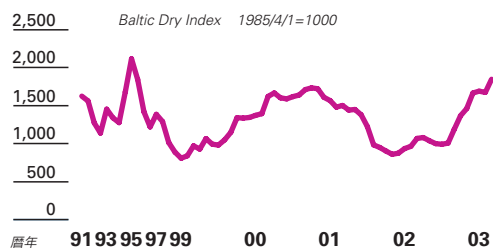
\* 近海事業の売上高は当社と旧ナビックスの近海事業子会社の合計となっており、内航部門売上高を除いた数値となっています。2001年度の売上高が前年度に比べ減少しているのは、エム・オー・シーウエイズとナビックス近海の統合時期が2001年7月であることから、ナビックス近海の売上高9カ月分のみを計上していることによります。

\*\* 1999年度には新さくら丸がサービスを終了し、ふじ丸とにつぼん丸の2隻体制となりました。

主要マーケット指標

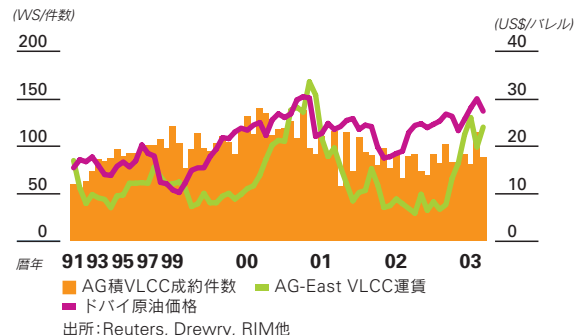
不定期船マーケット

最新情報については <http://www.mol.co.jp/ir-j/> の海運市況をご参照下さい。



タンカーマーケット (VLCC)

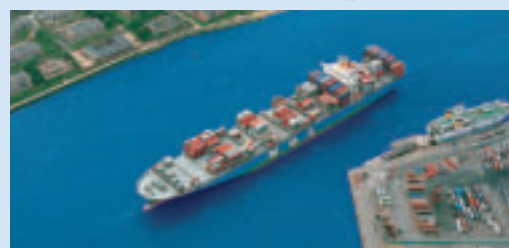
最新情報については <http://www.mol.co.jp/ir-j/> の海運市況をご参照下さい。



業績

運賃市況回復の下期へのずれ込み、および新造船投入の遅れを背景に、定期船事業の単体売上高は、前年度比0.03%減の2,780億円となりました。しかし、基幹航路の荷動きは活発で、太平洋航路では冬場でも運賃水準を維持し、アジア/欧州航路においても運賃修復が着実に実施されたため、下期には業績は改善されました。こうした状況に対応し、当社では、主要航路の一層のサービス拡充とコスト競争力強化に努めました。

コンテナ船[MOL Performance]



不定期船事業の単体売上高は前年度比3.0%増の2,667億円となりました。バルクキャリア事業の売上高は、上期は運賃市況低迷の影響を受けましたが、下期は鉄鉱石、石炭など中国および日本向け貨物の旺盛な船腹需要などにより好転しました。自動車船事業は、日本出し北米向け輸出の増加に加え、三国間のトレードも活発で輸送量が増加しました。

ケープサイズバルカー[Kohyohsan]



上期低迷した原油・石油製品タンカー市況は、下期には大幅に改善しましたが、油送船/液化ガス船事業の単体売上高は、前年度比1.9%減の1,418億円にとどまりました。また、LNG船事業は安定した収益源として成長を続けており、新規契約の獲得も着実に進んでいます。

ダブルハルVLCC[Perseus Trader]



商船三井近海(株)の単体売上高は前年度比11.3%増の132億円となりました。東南アジア出し合板の荷動きが他商品との競争激化およびJIS規格変更による在庫抑制により低迷し、採算面では往航のブームを100%享受することはできませんでしたが、期全体を通じて、日本からアジア向け鋼材輸出が非常に好調に推移したことが好材料となりました。

ツインデッカー[Sun Grace]



商船三井客船(株)の単体売上高は前年度比44.2%減の49億円となりました。この減収は客船「ふじ丸」にて催行するチャーター部門の分離によるものです。「にっぽん丸」は、第三次改装を2003年1月に実施し、海上滞在空間としての魅力を一層向上させましたが、当期は、日本国内の景気回復の遅れ、個人消費の冷え込みから、所期の目標を達成することができませんでした。

客船[にっぽん丸]

